

カバー曲の比較研究：聴取者が受ける印象の違いの分析
Comparative study of cover songs:
Analysis of difference in perceived impression of listeners

学籍番号: 201421579

氏名: 金澤 徹

Toru KANAZAWA

オリジナル曲とカバー曲は、同じ楽曲であっても歌い方、音域、伴奏等が異なり、場合によって大きく印象が変化する。これまで、楽曲の印象に関する研究として評価語を用いた心理調査、カバー曲に関する研究として楽曲の同定や歌詞分析等が行われてきた。しかし、オリジナル曲とカバー曲を聴取した際の印象比較に関する研究は私が調べた範囲では行われてきていない。

そこで、本研究ではオリジナル曲とカバー曲の聴取を通して、音楽聴取時に知覚される印象と楽曲内容の関係性について明らかにすることを目的とした。そのために、複数の条件設定で聴取実験を行った。また、聴取実験と並行して印象評価項目と印象評価手法の検討も行った。

はじめに、調やテンポ等の楽曲に関するデータを収集し分析を行った。分析の結果、カバー曲の調にはカバーする側のアーティストの声域による違いが見受けられた。続いて、19の形容詞対からなるSD法による印象評価項目と、「楽器」、「声」、「総合」の3つの得点評価項目を使用した聴取実験からは、「大サビ」が最も「総合」得点に影響する事や、『大サビのみ』の聴取で『フル』聴取時の印象評価結果及び得点評価に近い結果を得られることが分かった。さらに、印象評価データを因子分析した結果、「主要因子」と「補助因子」の2因子に「得点」、「美的」、「迫力」の3つの概念を加えた因子行列を作成した。また、因子分析や楽曲の聴き方に関する実験後アンケート調査の結果から、アーティストの“歌い方”がカバー曲の印象評価に強い影響を与えていることが明らかになった。そして、最終的に多くの人が好ましいと評価するカバー曲は、“オリジナル曲の雰囲気寄りながらも、カバーアーティストの特有の個性を出している楽曲”であると結論付けた。

本研究で『大サビのみ』の聴取で印象・得点評価を行うことが可能となった一方、聴取者の経験や嗜好がカバー曲の印象に与える影響までは明らかにすることが出来なかった。今後は、カバー曲のデータや印象評価に用いるカバー曲の数を増やしていくことで、更なる知見を深め、明確なカバー曲の評価基準の作成を目指したい。評価基準を見つければ、カバー曲のみならず楽曲全般にも応用可能であると考えられる。

研究指導教員: 平賀 譲

副研究指導教員: 森田 ひろみ